

平成 29 年度茨城県グローバル人材育成プログラム 研修報告書

水戸赤十字病院 形成外科 江藤綾乃

研修先 : MAYO CLINIC Plastic Surgery

平成 29 年 12 月 18 日～3 月 2 日までの 11 週間、MAYO CLINIC 形成外科に Visiting Clinician Program を利用して留学させて頂いた。今後の自分自身の診療を発展させるため、日米の診療の相違点を学ぶことを主目的に臨んだ。乳房縮小術や性別適合手術など、日本で経験が少ない症例も数多く手術や外来診察を見学することができた。

◆MAYO CLINIC

MAYO CLINIC は“The Needs of the Patient Come First”を理念に掲げ、患者満足度が高く、全米で最も優れた病院のひとつとして知られる。また、全米で初めてレジデンシー制度を導入し、卒後臨床研修のモデルを作った病院でもある。ミネソタ州ロチェスターに本部、フロリダ州ジャクソンビル、アリゾナ州フェニックス/スコッツデールに支部がある。ロチェスターの本部には Mayo Clinic Methodist Campus とそこから車で 5 分ほどの距離に Saint Marys Campus の 2 つの大きな病院がある。私は Methodist Campus での見学だった。こちらは主に 6 つの Building が連なる巨大な建物群である。

6 つの Building はどれもゴージャスである。ロビーなどのスペースにグランドピアノが置かれているところが数か所あり、ピアニストたちが朝から演奏している。他の楽器と一緒にミニライブが行われていることもあり、患者さん・家族だけでなく、職員も聴いていたりする。MAYO CLINIC の成り立ちなどを展示した博物館のようなスペースもある。日本の病院のような雰囲気は全くなく、高級ホテルのようである。

ミネソタ州は、冬には時に -30°C に達することもあり「アメリカの冷蔵庫」と呼ばれ、「アメリカの冷凍庫」と呼ばれるアラスカ州に次いで寒い州である。私が訪れたのは、まさに最も寒さが厳しい時期であり、 -20°C を下回ることもしばしばであった。このため、病院の Building どうしはもちろん、近隣のホテルや銀行などの Downtown の施設が Subway や Skyway Access の屋内通路で結ばれ、極力屋外に出ずに移動できる構造になっている。

◆Visiting Clinician Program

最長 12 週間までの見学プログラムである。申請した見学希望内容により、受け入れ Campus と Host Doctor が決まる。受け入れ先以外の見学は許されない。私は、Methodist Campus の形成外科が受け入れ先だったため、Saint Marys Campus は見学できなかった。安全管理、患者プライバシー保護などの観点から、Visiting Clinician の行動は制限されている。ロッカールームや手術室など各所の入口は電子ロックされており、インターホン越しにセキュリティーセンターのスタッフに解錠してもらう必要がある。また、電子カルテへのアクセス権限がない。したがって、手術予定など誰かに聞いて確認するしかない。Research

fellow も基礎研究の場合は電子カルテへのアクセスは一切できず、手術室や外来の見学が許されないそうである。それぞれの立場で許可されること、されないことがはっきりしている。受け入れて下さった診療チームはとても親切で、同一 Campus 内での Host Doctor 以外の症例の見学は問題なく許可された。ちなみに、手術室を含む院内の写真撮影などは一切禁止されている。

◆形成外科チーム

Methodist Campus、Saint Marys Campus あわせて 12 人の指導医、18 人のレジデントが所属していた。Methodist Campus は Breast、Saint Marys Campus は Hand、Craniofacial と分かれている。再建手術によっては Methodist Campus の医師が Saint Marys Campus に赴くこともあるようだ。レジデントは 1~2 か月ごとに指導医をローテートしながら研修するが、他の指導医の症例の手術に入ったり、外来についたりもしている。

手術室は私が見学できたエリアでは 38 室あり (Saint Marys Campus もあわせたロチェスター全体ではもっとたくさんある)、形成外科は 2~3 部屋並列が基本で動いていた。その他、他科再建に呼ばれることがある。

◆臨床研修・手術編

私の Host Doctor、Dr. Oscar J Manrique は再建外科、リンパ浮腫、トランスジェンダーを専門としている。Host Doctor の症例を中心に見学した。

乳房縮小術は日本では自費診療でほとんど見る機会がなかったため、大変勉強になった。指導医ごとにデザインから、閉創の糸の種類、ドレッシング材、胸帯の種類などまで違い、こだわりが見て取れた。

日本でも近年保険適応になって症例数がかなり増加している乳癌術後の乳房欠損に対する組織拡張器・シリコンインプラントの再建はもちろん多い。再建時に健側の乳房縮小や吊り上げを同時に行う、あるいは健側も乳房切除してしまい同時再建する、という症例がしばしばあり、混合診療が認められない日本の症例との大きな違いである。自家組織再建、DIEP flap も数例見学した。基本的な手技は同じであったが、静脈の血管吻合が自動吻合器を用いるという違いがあった。日本では自動吻合器を用いることがなかったため、とても参考になった。

リンパ浮腫はリンパ節移植と LV Bypass を行っていて、見学期間では LV Bypass 3 例、リンパ節移植 1 例を見学した。

トランスジェンダーは mastectomy、vaginoplasty の症例が複数あった。日本ではまさに保険適応になるところであり、今後増えるであろう性別適合手術のニーズに形成外科医が応えなければならないと感じた。

形成外科医にとって、症例写真は必須であるが、Mayo では手術室専属のカメラマンがいる。電話 1 本ですぐに撮りに来てくれる。電子カルテに取り込んでくれるし、データの管理

も専属カメラマンたちの仕事だそうだ。論文や学会発表用の写真は、院内メールで「術前と術後の並べたデータを作ってほしい」などカメラマンとやり取りして作成している。写真はプロの仕上がりで、かつ個人情報が出ることもない、理想的な環境である。

◆臨床研修・外来編

完全予約制で、新患には最低 30 分間の枠をとり、午前 7 人、午後 7 人の合計 14 人程度の診察だった。日本と比べ、一人当たりの診察にかけられる時間が圧倒的に多く余裕がある。診察の内容に応じて、それぞれわかりやすいパンフレットや DVD などが各種準備されている。患者さんは受診前にこれらに目を通している場合もあり、説明は比較的スムーズである。依頼すれば、通訳の職員もすぐにやってくる。診察時間のうち、医師が丁寧にいろいろな情報を提供するということはもちろん重要であるが、患者さんからの質問を受けて答える時間が十分にあるということが大切だと感じた。内容の理解を助けるだけでなく、信頼関係を築くためのプロセスでもある。日本では全員に 30 分を確保することは難しいが、一方通行ではないコミュニケーションをより一層心掛けて診療を行いたい。

術後の再診は、簡単に終わってしまうことが多い。創部は皮膚縫合せず、皮下の連続埋没縫合とダーマボンドで、抜糸が必要ない症例がほとんどだ。ドレーンの抜去程度である。経過観察の症例はもっと短い。満足度、困っていること、質問が何かあるかを尋ね、創部をチェックし、問題なければ 5 分程度で終わってしまうこともある。処置が圧倒的に少なく、外傷の急患が飛び込んでくることもないので、スーツでの診療でも全く問題ない。日本の市中病院とは大きな違いである。

外来にも専属カメラマンがいる。術前、術後の写真は必ず撮っている。写真撮影のための部屋もあり、背景なども含め完璧な写真が出来上がる。

◆まとめ

MAYO CLINIC でも治療そのものは標準治療であり、「ものすごく特別な何か」があるわけではない。Mayo にも術後感染や皮弁・植皮壊死などのトラブル症例はある。しかし、長きにわたり全米で最も優れた病院のひとつとして患者さんから絶大な信頼を得ている。術後の合併症が起こったとしても、患者さんは「Mayo での結果だから仕方がない(他でも同じ、あるいはもっと悪い結果だっただろう)」という認識なのだそうだ。Mayo の給与が出来高制ではなくアメリカでは珍しい固定給制で、ひとりひとりの診療にこだわり、質の高い医療を追求できる環境であることも関係するのかもしれない。手術や外来など日々の診療中には逐一指導医からの優しい解説があり、レジデントは各指導医をローテーションすることで偏りなく教育される環境もある。そして、レジデント、フェロー、指導医それぞれが研究、発表し評価を得ている。各々がコツコツとその実績を積み重ねるからこそ MAYO CLINIC と Mayo の医師たちが一流であり続けるのだと思う。

◆最後に

今回、海外研修の機会を与えて頂き、サポートして下さいました国際医療センターの皆様、水戸赤十字病院の皆様、筑波大学形成外科医局の先生方に深謝申し上げます。

水戸赤十字病院 形成外科 江藤綾乃



MAYO CLINIC の創始者である Mayo 兄弟像